

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和5年6月16日	
富山県知事 新田 八朗 殿	
提出者 住 所 富山県射水市八幡町3丁目10番15号 日本高周波鋼業株式会社富山製造所 氏 名 専務執行役員富山製造所長 下野 茂治 電話番号 0766-84-3181(代)	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日本高周波鋼業株式会社 富山製造所
事業場の所在地	富山県射水市八幡町3丁目10番15号
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	鉄鋼業
②事業の規模	製造品出荷額 30,039 百万円
③従業員数	523人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
<div><div>製造所長 (廃棄物処理統括責任者)</div><div><div>製造所環境 管理委員会</div><div><div>総務室 環境管理者</div><div>業務部 環境管理者</div><div>技術部 環境管理者</div><div>製鋼鍛造部 環境管理者 廃棄物処理施設技術管理者</div><div>線条製造部 環境管理者 廃棄物処理施設技術管理者</div><div>安全環境防災室 専門委員会 産業廃棄物管理責任者 特別管理産業廃棄物管理責任者 廃棄物担当者</div></div></div></div>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙2のとおり		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙2のとおり		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

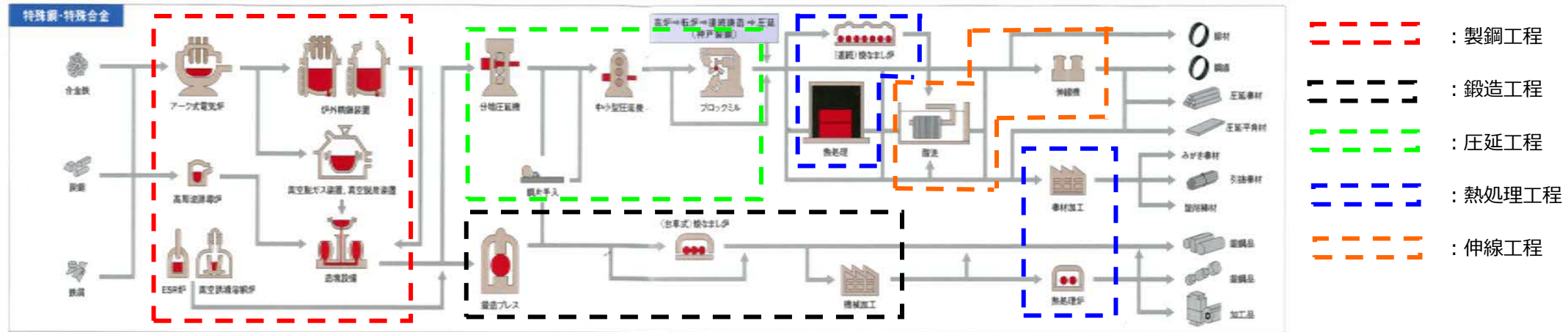
②計画	【目標】 別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

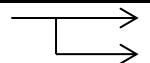
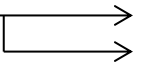
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書 別紙1 (産業廃棄物の一連の処理の工程)

製造プロセス



処理プロセス

分類	廃棄物名	発生工程	自社中間処理	自社再生処理	委託中間処理	委託最終処分
汚泥	酸スラッジ	伸線工程	脱水	—	造粒固化	管理型埋立
廃油	廃油	各工程 (鍛造工程が多い)	—	—	油水分離 	再生油 残渣→管理型埋立
廃アルカリ	廃アルカリ	伸線工程	—	—	混合 	燃料化 残渣→管理型埋立
廃プラスチック類	廃プラスチック類	各工程	—	—	破碎・選別 	原料化 残渣→管理型埋立
金属くず	金属くず	各工程	破碎・選別	鉄源(再溶解)	—	—
ガラスくず, コンクリートくず, 陶磁器くず	レバーくず	各工程 (製鋼工程が多い)	選別	再使用	砕石化	管理型埋立
鉬さい	電気炉スラグ	製鋼工程	破碎・選別	—	セメント化	管理型埋立

産業廃棄物処理計画書 別紙2 (産業廃棄物の排出の抑制に関する事項等)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項									
①現状	【前年度（令和4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス、コンクリート、陶磁器くず	鉰さい
	排出量	4,052.24 t	109.60 t	8.64 t	46.83 t	103.19 t	21,421.40 t	6,635.58 t	6,963.66 t
	（これまでに実施した取組）								
	汚泥：発生工程である酸洗工程での再酸洗量低減による汚泥発生量削減活動を継続実施。 陶磁器くず：一部レンガの有償物化と現在産業廃棄物となっている陶磁器くずの一部（定盤レンガ）について有償物化するべくレンガメーカーと協議実施。 鉰さい：石灰使用量削減による排出抑制と、有償物（肥料原料化等）として売却するための販売活動を実施した。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス、コンクリート、陶磁器くず	鉰さい
	排出量	4,293.73 t	116.02 t	8.69 t	48.36 t	89.58 t	21,534.74 t	6,648.12 t	7,562.85 t
	（今後実施する予定の取組）								
	廃油：一部廃油について、有償物化するべく回収テストを実施する。 陶磁器くず：陶磁器くずの一部について有償物化するべくレンガ分別方法の検討、回収を開始する。 陶磁器くず：陶磁器くずの一部について製造工程で利用する造さい材として活用できないかテストを実施する。								
産業廃棄物の分別に関する事項									
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）								
	金属くず：再生利用できるように金属くずの種類毎に分別して回収している。回収率を上げるために所内に金属くず回収ドラムを増設。 鉰さい：有償物化可能な鉰さいと有償物化不可能な鉰さいとに分別している。 陶磁器くず：有償物化可能なレンガくずと有償物化不可能なレンガくずとに分別している。								
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）								
陶磁器くず：現状産業廃棄物として処理しているレンガくずを分別し有償物化する。									
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項									
①現状	【前年度（令和4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス、コンクリート、陶磁器くず	鉰さい
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	6.37 t	0.00 t	19,474.00 t	0.00 t	1,166.56 t
	（これまでに実施した取組）								
	金属くず：鉄源として再生利用している。 廃プラスチック類：廃プラスチック類の一部について、当社炭材・助燃剤の代替物として継続して利用している。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス、コンクリート、陶磁器くず	鉰さい
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	6.96 t	0.00 t	19,577.04 t	0.00 t	1,172.71 t
	（今後実施する予定の取組）								
	廃プラスチック類：廃プラスチック類の一部について、当社炭材・助燃剤の代替物として継続して利用する。 鉰さい：鉰さいの自社内もしくは他社での再利用を検討する。								
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
①現状	【前年度（令和4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス、コンクリート、陶磁器くず	鉰さい
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	2,021.28 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	1,947.40 t	0.00 t	278.55 t
	（これまでに実施した取組）								
汚泥：フィルタプレスでの脱水効率維持のため、定期修理継続実施。 鉰さい：鉰さいを破碎・選別し、鉰さいと金属くずに分けている。									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず	金属くず	ガラス、コンクリート、陶磁器くず	鉰さい
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	2,142.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	1,957.70 t	0.00 t	360.14 t
	（今後実施する予定の取組）								
鉰さい：現状の減量化率を維持する。									

